

赤い玄米が混じっていませんか？ ～雑草イネ対策は始めが肝心！～

農業試験場

3月に入り、お米作りをされている農家の方は、種粃や育苗の準備をする時期となりました。平穏な気候で豊作となってほしいものです。

さて今回は、長野県内をはじめ全国的に問題となっている「雑草イネ」について解説します。雑草？、イネ？、どっちなの？と、お思いかもしれませんが、雑草イネは、「コシヒカリ」などの栽培イネと異なり、自然と粃がこぼれ、野生化して水田で自ら繁殖するイネです。水田での生育中は、栽培イネと似たような外観で、見分けが付きにくいですが、代表的なタイプは丈が長く、粃の先が赤いものが多いです（写真1）。また、粃すり後の玄米は赤茶色をしています（写真2）。

コイン精米機などで精米する際に、写真2のような玄米が混じっている場合は、収穫した水田で雑草イネが発生している可能性があります。注意が必要です。

雑草イネは食べても問題ありませんが、何も対策をしないとねずみ算式に増えてしまって、これまでどおりのお米作りが出来なくなったり、撲滅するまで長い年月と多額の費用がかかったりしてしまいます。また、近隣の水田へ広がっていくリスクもあります。

大事なことは、火事に例えると、「防災意識」と「初期消火」です。「防災意識」とは、雑草イネ（災い）のを知ること。そして、ご自身だけでなく、地域全体で「雑草イネがあるとまずいんだな」と思う危機意識を持ちましょう。もし、写真のようなちよつと変わったイネや玄米があったら、お近くの指導機関（JAや農業農村支援センター）に相談してください。

指導機関では、「初期消火」の方法（雑草イネ対策用の除草剤やその他の対策方法）を教えてください。消防署のように消火をお願いすることは出来ませんが・・・

ぜひ、地域の「防災意識」を高め、「大火事」とならないように心がけましょう！



写真1 雑草イネの外観

丈が栽培イネより長く、円内の写真のように粃の先が赤いのが雑草イネの代表的なタイプです。



写真2 雑草イネとコシヒカリの玄米
赤い玄米は雑草イネです。

担当者	宮原 薫	電話番号	026-246-9783
-----	------	------	--------------